

## 第25回日本木材学会九州支部大会（福岡） 開催報告

第25回日本木材学会九州支部大会  
運営委員長 堤 祐司

第25回日本木材学会九州支部大会が、平成30年11月15日（木）、16日（金）に、九州大学伊都キャンパス椎木講堂で開催されました。本大会は九州支部会発足から四半世紀、25年目の大会であること、また九州大学キャンパス移転完了直後の伊都・新キャンパスで行われることなど、節目の大会でありました。伊都キャンパスは福岡市の西部に位置し、市街中心部から遠いにも関わらず、78名のご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。ご参加いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

本大会の公開講演会（支部会研鑽プログラム）では、～九州支部の25年の歩みと未来～をテーマとして、支部設立にご尽力頂いた熊本大学名誉教授・大迫靖雄先生に「黎明期の日本木材学会から九州支部の結成まで」と題し、九州支部設立に向けてのご苦勞や活動内容のお話しと支部へ激励を、また日本木材学会副会長・東京農工大学教授・船田良先生からは「日本木材学会の現況と九州支部への期待」と題する講演で、これまでの九州支部活動への褒めの言葉、ならびに今後の期待の言葉を頂きました。

今回の大会は、九州大学キャンパス移転完了直後に行われると言うことで、新キャンパス（新農学部）の見学会も開催しました。木材がヒトの生理・心理に及ぼす影響を科学的に検証することを目的としてキャンパス内に新設した「機能性木材実験棟」、また、図書館や研究室等に分散して管理されていた金平コレクション（さく葉、材鑑標本）を1カ所に集めた標本展示室、そして新しくなった各研究室の実験室等の見学を行いました。

見学会の後、椎木講堂内のイタリアンレストランで懇親会が行われました。船田先生によるご挨拶と乾杯のご発声とともに会がはじまり、ご参加いただいた44名の皆様は、美味しい料理とお酒を共に楽しい歓談のひとつを過ごされました。最後に、九州支部設立にご精勵頂いたお一人として、九州大学名誉教授・坂井克己先生より、懇親会の締めのお言葉を頂きました。

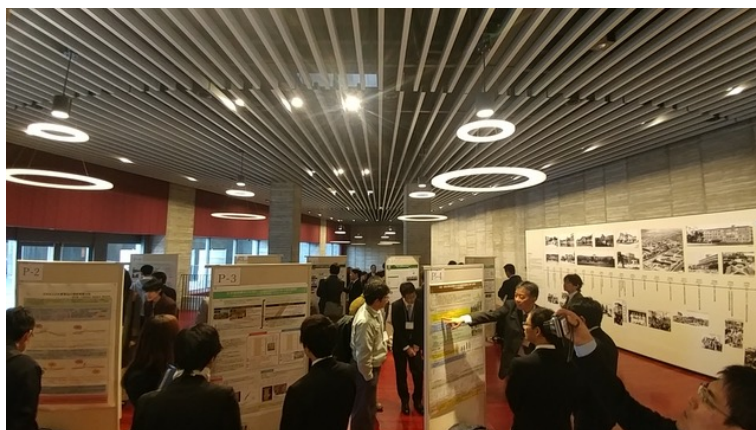
本年度の研究発表は口頭発表 phase I（研究まとめ的内容、発表時間25分）

が2件、phase II（通常の研究発表、発表時間15分）が9件、ポスター発表が17件、行われ、林産教育分野から生化学まで木材に関わる幅広い研究発表が行われました。特筆すべきは、「虹ノ松原保全活動の推進と副産物の有効活用」というタイトルで、唐津南高校の高校生による研究発表（口頭発表 phase II）がありました。佐賀県の有名な海岸松林「虹ノ松原」の保全を目的とし、松葉からのペレット製造と利用法開発（燃焼材および農業用マルチ）や松ぼっくりからのポプリ製造など、松林内資源の有効利用を試みる大変興味深い内容でした。高校生による研究発表は、九州支部大会初の事例です。今後も若い世代が、林産資源ならびに林産学に興味を持ってくれるよう期待いたします。また、九州支部で例年行っている若手研究者の表彰「黎明研究者賞」は、以下のように決定され、支部大会の最後に授与式が行われました。受賞された方々、おめでとうございます。今後のご活躍を期待しております。

黎明研究者賞（口頭発表部門）： 鹿又 喬平 氏（九州大学）

黎明研究者賞（展示発表部門）： 溝口 佑真 氏（宮崎大学）

なお、本年度の九州支部大会は要旨集の印刷配布を取りやめ、電子版ダウンロード形式を採用する新たな試みをいたしました。大きなトラブルもなく、印刷費が削減できたことも合わせてご報告いたします。



写真：口頭発表（上）、ポスター発表（中）、表彰式（下）